



地域への貢献度の高い活動により 市民からの信頼を獲得する

**佐賀県
株式会社ヤマト**
「地域に根ざした多岐にわたる
社会貢献活動」事業



株式会社ヤマト
代表取締役社長
林 愉美さん



「さが桜マラソン」開催時には、ホール駐車場に仮設トイレを設置し開放

世界的な熱気球イベントや 市民マラソン大会に協賛

1983年に創業した株式会社ヤマトは、佐賀県内に2ホール、福岡県内に1ホールの「ゴールデンラッキー」を展開している。地域への貢献度の高い社会貢献活動を継続することで、地域に根ざした愛される企業となるべく努力を重ねているが、その活動は実に多岐にわたっている。

そのなかでも市民からの注目度が高いのが、地域最大級のイベントである「佐賀国際バルーンフェスタ」への協賛である。このイベントは、「一般財団法人日本航空協会」、「日本気球連盟」、佐賀県、佐賀市、佐賀バルーンフェスタ組織委員会などが主催となり、佐賀熱気球世界選手権実行委員会が実施するもので、昨年10月28日～11月6日までの10日間の大会期間中に、佐賀熱気球世界選手権に105機、フェスタ部門に25機、バルーンファンタジアに12機、熱気球ホンダグランプリ最終戦に25機、オフィシャルバルーン19機の総数186機が、31の国と地域から参加した。大会参加人数は選手、役員、スタッフを含めて約1500人、大会期間中の来場者は約130万人という大掛かりなものであった。ヤマトではこのイベントに2009年以降毎年、協賛金を寄贈している。

また、2013年に始まった「さが桜マラソン」に対しても、協賛金を毎年、寄贈している。このマラソン大会は佐賀新聞社、佐賀陸上競技協会、佐賀県、佐賀市、神埼市が主催するもので、佐賀県総合運動場前をスタートし、佐



ホール駐車場に設置された仮設トイレ



本社周辺の河川清掃や除草活動に地域住民と一緒に参加



障がい児支援施設、地元自治会の子どもクラブなどに社員が出向き、施設長や入所者に直接、お菓子を贈呈

賀城本丸歴史館、吉野ヶ里歴史公園内、多布施川沿いを通り、再び佐賀県総合運動場に帰ってくるコースで、高低差10mほどのフラットな道の特徴となっている。昨年は4月3日に開催され、フルマラソンに約8,500人、ファンラン(9.8km)に約1,500人のランナーが参加した。ヤマトでは、自社のホール前がマラソンコースにあたるため、ホール駐車場に仮設トイレを3基設置し、一般に開放したことで、ランナー、スタッフ、観客から喜ばれた。この2つのイベントに対する協賛金の合計額は、これまで約685万円となっている。

環境美化活動への積極的参加や 障がい児施設などへのお菓子贈呈

この他にもヤマトでは、会社のスローガンのひとつとして「地域と一体になって環境活動に取り組む」を掲げ、地域の環境美化活動に積極的に取り組んでいる。春と秋の2回行われる佐賀市主催の「川を愛する週間」では、佐賀市にある本社周辺の河川清掃や除草活動に地域住民と一緒に参加し、社員がゴム胴長を身につけて川に入って清掃したり、毎月9日を「地域清掃の日(グリーンデイ)」と定め、各ホール周辺地域の清掃活動を実施し、地域住民から信頼を得ている。

また、年2回、障がい児支援施設、地元自治会の子どもクラブなどに社員が出向き、施設長や入所者に直接、お菓子を贈呈しているが、お菓子を贈られた施設や団体からは感謝の意を表すお礼状、園児からは手書きのメッセージカードなどが届けられるという。

さらに途上国の子どもたちにワクチンを届けるためのECOキャップ回収活動、地区体育協会に対する協賛金拠出、地域の高校の吹奏楽部定期演奏会に対する資金支援などを行っているほか、所轄署と連携し、交通安全・防犯活動の一環として、新聞折り込みチラシや大型ビジョンで「STOP振り込め詐欺」「交通事故多発警報」などの広報啓発活動を実施している。こうした多岐にわたる活動により、ヤマトは地域になくてはならない企業として高く評価されている。